

大分県立高等学校・中学校第三者評価【評価書B】

大分県教育委員会

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 大分雄城台 高等学校	
学校教育目標	「誠実・自主・創造」の校訓のもと、持続可能な社会の構築に必要な資質・能力である情報整理力・課題解決力・発信力・協働・自他の尊重・チャレンジ精神の育成を図る教育活動をととして、社会において逞しく生き抜き、主体的・積極的に社会貢献できる生徒の育成を目指す。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 ESD(持続可能な開発のための教育)とSDGsを中心に据えた教育が校長の下、計画的に実施されている。 運営委員会前に統括会議を実施し、情報の共有や課題整理等の円滑なコミュニケーションが行われている。 管理職が教職員からの意見を吸い上げやすい環境や雰囲気を作っていることも高く評価できる。 内容的な深みを増す議論となるよう、今後も継続した取組を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに則り、校長のリーダーシップのもと学校全体でESDとSDGsを推進し、社会貢献できる生徒の育成を図っていく。 ・管理職と教職員の円滑なコミュニケーションを土台に、育成したい6つの資質・能力で全ての教育活動を繋ぎ、重点課題解決に向けて教育活動を継続していく。
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校の経営目標・重点目標はわかりやすい。 ・単元デザインシートや単元配列表が作成され、組織的にPDCAを回す体制が実効性を持って運営されている。 ・校長と分掌主任等とのコミュニケーションが良好である。 ・分掌主任等の運営委員会の他、横断的に議論をする統括会議が組織され、PDCAを効果的に回している。 ・1回目の評価に対し、校長の指揮の下、組織的に真摯に協議、対応を行い、地道な改善を図っている。 ・模試の成績分析について、学年団や教科でどのように捉えて対策しているかを明確化するよう期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統括会議や学年主任会議での横断的な議論をととして、課題や改善点について早い段階で把握するとともに、次年度への改善策を積み重ねていく。 ・各種アンケート調査や模試成績分析会を実施し、求める目標と、現実の結果として出た指標とのギャップについて再度検討し、適切な達成指標を設定し、効果的なPDCAサイクルによる着実な学校改善、学力向上を図っていく。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> 〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・社会や地域との連携、中学校への発信に積極的に取り組んでおり高く評価できる。(同窓会SNSからの情報発信、PTAと連携した効率的な取組、独自の校内見学会の実施) ・生徒との信頼関係が構築され生徒からの評価は総じて高く、本校に対して誇りを持っていることも伺えた。 ・講演会の実施等、生徒を前向きにさせるような各種連携事業が実施されていることは評価できる。 ・生徒や保護者アンケートの調査結果より、学校の満足度の高さが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日常の活動や、各種大会での活躍を中心に据えた本校の魅力を、より一層地域や中学校へ発信していくため、学校ホームページや学校便りの更なる充実を図る。 ・同窓会やPTA等との各種連携事業による生徒の「志」を高める取組の更なる充実と、独自の校内見学会やオープンスクールでの本校生徒と中学生が直接対面できる場面を増やす工夫をする。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 〇授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・OGiメモは生徒自身もその価値を認識しており、自律に向けた基礎として大いに役立っている。 ・上記の提出が義務化されているため、どこまで記載させるか等、時代の変化の中で一定の配慮も必要である。 ・ICTの活用やペアワーク、グループワーク等を取り入れた対話的な授業が多く、生徒の評判も良い。 ・全体的に格段の改善がなされ、授業研究会の成果等が出ている。生徒が生き生きと学習している。 ・一方的に説明するだけの授業があった。適宜グループワークを取り入れる等、不断の改善努力が求められる。 ・授業と関係のない画面を開いていたり全く対話しないペアも散見され、全員参加型授業展開の難しさを感じた。 ・今後も引き続き、効果的な場面でのICT活用を目指した取組の継続を期待したい。 ・学習面、生活面共、生徒一人ひとりに寄り添った指導がなされており評価できる。 ・OGi学(総合的な探究の時間)については、生徒の視野を広げたり横断的な思考力を鍛えており評価できる。 ・調べ学習に留まっている班もあり、問いの立て方や探究に仕方、プレゼンの仕方等、改善の余地がある。 ・フィールドワークの目的の理解向上やどのように探究結果に生かすのか等、教員の適切な指導も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点を踏まえた授業とSDGsを題材としたOGi学(総合的な探究の時間)の教科等横断的な連携をより進めるとともに、単元デザインシートを活用した「指導と評価の一体化」の更なる充実を図る。 ・年2回の授業研究会を軸に組織的な授業改善を進める。生徒の興味喚起を意識した教材の工夫、及び深い思考を促す発問の工夫やICTの活用、ペアワーク、グループワークを取り入れた対話的な授業等により、生徒の学習意欲を高め、「深い学び」を実現するための授業力向上を図る。 ・OGi学(総合的な探究の時間)が、単なる調べ学習に留まらないよう「問いの立て方」や「フィールドワークの進め方」、「プレゼンの仕方」等について、全教員が適切な指導助言ができるよう研修機会の充実を図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> 〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・いじめ・不登校等は生徒一人ひとりに寄り添った指導がなされ小さな芽を摘む対応が組織的にされている。 ・対応が必要な生徒のケース会議を開催する等、生徒一人ひとりに合った対応を組織的にしている。 ・生徒との面談等を通して、本人はもちろん、周囲に起きていることについても聞き取りを行っている。 ・SNS等の見えづらい場面を含め、生徒の声を拾う努力を引き続き行うよう期待する。 ・生徒同士や生徒と教員の関係が良好である。今後も生徒の心の変化に敏感に対応できることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OGiメモを活用した人間関係づくりプログラムによる自己理解や他者理解の深化、及びいじめの未然防止に向けた組織的な取組と学期毎の面談期間等を通じ、生徒の悩みや困りをいち早く発見し、対応する体制を継続していく。 ・不登校対策については、定期的な保健教育相談連絡会の実施とタイムリーなケース会議等を効果的に運用するとともに、相談内容等の分析を含めてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとクラス担任との連携強化を図り、不登校の未然防止につなげる。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・自転車通学者が多い中、指導の充実や危険マップの一元化等の対策を講じ、事故が減少傾向にある。 ・周辺の工事状況や生徒の状況に応じて引き続き対策を変更したり、地域の理解を得つつ効果を上げてほしい。 ・地震や台風・豪雨等の災害、不審者に対する危機管理は、マニュアルや体制が整備され適切である。 ・通学路や居住地における万一来備え、避難ルートや避難場所の周知等、定期的な訓練、見直しも期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故防止については、本校の重点課題と捉え、交通ルール・マナー遵守の徹底を図る。また、通学路危険マップを常に最新の状態でアップデートしておく。更に生徒会による啓発活動など、生徒の自主性を育てる取組を推進していく。 ・万一来備え、危機管理マニュアルを教職員で共有し、避難ルートや避難場所の周知等、定期的な訓練、見直しを継続し、実効性を高めていく。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等が教育と働き方のバランスを取ることに腐心しながら、県教育委員会の指針を踏まえて取り組んでいる。 ・時代を考慮し、先生方の指導観の見直しや勤務時間管理、休暇取得等、勤務状況の改善が進められている。 ・完全定時退庁日の設定等、ノー残業の意識を定着させる活動が行われている。 ・Arms(校務支援システム)や校内ネットワーク等の活用により、更なる業務の効率化の推進が図られている。 ・職務を遂行する際や悩みの相談等において、同僚及び管理職からの支援が適切に行われている。 ・ICT化から紙媒体とのバランスの見直しや業務効率化等に引き続き取り組み、働き方改革に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き負担感の軽減をより実感できるように、適切なスクラップ&ビルドを実施する。実際に運用していく中で、更に改善できる点を検討していく。あわせてICT機器の活用による業務の効率化を引き続き推進していく。 ・本校は部活動の活躍実績が大きな特色の1つであるが、生徒と教員の健康保持のためにも適切な休養日と活動時間を考えた毎月の活動計画を策定し、生徒や保護者への周知徹底を図っていく。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> 〇学力の向上に向けた取組が工夫されているか。 〇スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの発表会について、せっかく取材に行ったのであれば、行った先で更なる探究をしてほしかった。 ・1年後に同じメンバーとテーマで発表を行う等の研究を継続すれば、研究に深まりが生まれるのではないかと。 ・日々の全教科の授業を通して、プレゼンテーション能力を伸ばしていくことを期待したい。 ・スクール・ミッションやポリシーに基づき、探究学習が各教科に落とし込まれ組織的に展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校で育成したい6つの資質・能力で全ての教育活動を繋ぎ、学校全体でESDを推進していく上で、探究活動の深化とプレゼンテーション能力の向上が必要不可欠であるとの認識に立ち、学校全体で一層の取組強化を行う。 ・地域の中学校の上位者からも選ばれる学校となるように、中学校の教職員や中学生に働きかけるようにする事はもちろん、進学実績等の更なるアピールを強化し、地域住民に対して本校の魅力をアピールしていく。

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションやポリシーに基づいたESDの体系的な教育が校長のリーダーシップの下で組織的に行われており、またPDCAを組織的に回す体制や管理職と主任、他の教職員とが風通し良く議論できる体制もできており高く評価できる。 ・進学重視型単位制高校の特徴を生かし、主体的かつ真摯に取り組む生徒が多く、また「あいさつ」「清掃」の徹底がなされ、自然とそれができるようになる生徒が多くなることは高く評価できる。 ・体系的な取組や改善活動ができていところではあるが、一方でOGi学等の指導体制がマンネリ化していないかなどの自己点検を行い、社会変化に対応した改善を不断に行われるよう期待したい。
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もスクール・ミッション、スクール・ポリシーを全職員に深く浸透させ、それらと結びついた教育活動を教職員一丸となって推進することができるよう管理職やミドルリーダーが具体的な方針を示し、PDCAを組織的に回していく。 ・「あいさつ」と「清掃」の徹底を学校生活の土台として、持続可能な社会の構築に必要な6つの資質・能力を身に付ける教育活動を継続し、社会において逞しく生き抜き、主体的・積極的に社会貢献できる生徒の育成を図っていく。 ・安心・安全な学校生活が送れることが大前提であり、そのためのきめ細かい相談体制と指導体制を継続していく。大分市内の高校とはいえ今後「定員確保」が大きな課題となるため、本校3つの学校スローガン「日尽全力」、「文武両道」、「師弟同行」を体現している生徒の様子を学校ホームページ等とおして発信し、いかに大分雄城台高校で学ぶ生徒たちが輝いているかを積極的にアピールしていく。 ・第三者評価により、学校の課題や改善点がより明確になった。今後の学校運営・学校改革へとつながるよう、スピード感をもって取り組んでいく。大分市内の進学校として積極的に選ばれる「大分雄城台高校」をつくりあげていく。